

令和3年度 厚狭小学校学校経営方針

山陽小野田市立厚狭小学校長 久保 仁

1 学校教育目標

自らの力を拓き、心豊かに生きる厚狭の子を育てる。

2 めざす学校像

日々子供たちが学ぶ喜びにあふれ、学校全体が活力に満ちている学校

3 めざす児童像

① 心豊かな子(徳)

「誰かのために 何かのために」を合言葉に、人の役に立つ(奉仕の) 喜びを体験させながら、自己有用感を育て自尊感情を高めることで、心豊かな子を育てる。

② 自ら進んで学ぶ子(知)

友達と学ぶことの楽しさを感じさせ、達成感のある学習指導を行う。

- ・人の話を黙ってよく聞くことのできる子を育てる。
- ・人前で自分の考えをはっきりと言える子を育てる。
- ・自分から進んで学習できるように、学び方を指導する。

③ 目標に向かって努力する子(体)

困難に立ち向かい、それを乗り越えたときの喜びを共感できる師弟関係を築く。

- ・体力づくりの目標を立て、進んで戸外での活動に取り組む子を育てる。
- ・何事も目標を立て、目標達成に向けて努力する児童の支援を行う。
- ・強い向上心と、工夫と改善の能力を持った子を育てる。

4 めざす教師像

- ・信頼される教師
- ・学び続ける教師
- ・魅力ある授業を行う教師

5 チャレンジ目標

「厚」 あ 明るいあいさつ はきはき <元気>

「狭」 さ サイレントそうじ ピカピカ <勤勉>

「の」 の 伸びよう ぐんぐん <勤勉・規律>

「子」 こ 子どもが 自分で決める

()

6 本年度重点目標

・基本的な学力の確保

生涯教育の基礎を担う初等教育としての小学校のスタンスを明確にし、学校は児童に学力を保障し、児童に自立の心を養うこと。

・コミュニケーション能力の育成

価値観の違いを超えて、多様な他者と良好な関係を築いていくことのできるコミュニケーション能力。他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組めること。

・規範意識や正しい道德心の養成

将来を見据え、目前の子どもたちに確かな生きる力を付ける。激変する社会においても決して変わることの無い基本的な規範意識や正しい倫理観を養うこと。

本年度の教育活動の重点・留意点

- ① 日々の授業の工夫改善と授業力の向上
- ② 高学年における教科担任制を先行実施し、きめ細かな質の高い授業を提供する。教材研究の深化や授業準備の効率化が可能となり、学習内容の理解度・定着度の向上と学びの高度化が期待される。さらに教科担任制をとることで、小学校から中学校への円滑な接続を図ることにもつなげていく。
- ③ 導入された端末を新たな学習ツールとして活用し、従来の対面指導と遠隔・オンライン教育をハイブリッド化した学びを試行する。
- ④ 学校運営協議会委員からの意見・要望の具現化→地域教育協議会活動や日々の教育活動への反映をしていくこと。

(生徒指導)

- ・「誰かのために 何かのために」の取組が定着している。小中高で同一のスローガンの継続を願う。
- ・道徳教育の活性化に期待する。道徳の時間を上手に活用し、思いやりの心・人の痛みの分かる児童を増やしてほしい。
- ・自己肯定感を高めるかかわりが大切。学校は多くの場면을捉えて実践しているが、家庭でも自己肯定感を育成することが重要。学校と保護者・地域がさらに連携できるよう何らかの働きかけをしたい。
- ・コロナ禍での新たな人権課題への取り組みは重要。

(学習指導)

- ・基礎学力が身につくチャレンジタイムは今後も継続、充実させてほしい。
- ・発達段階や家庭の状況に対応した個別課題は、これからの時代にとっても必要なことだと思う。
- ・家庭学習の柔軟的な対応は難しいが、工夫して取り組まれている姿が多くみられ、評価します。

- ・コロナ禍の中、児童の学力向上に力を注いでいる。PC端末の効果的な活用を期待する。

(健やかな体)

- ・メディアコントロールについて、児童及び保護者への啓発を今後も根気強く行ってほしい。
- ・すでに実践されているクラスもあるが、授業参観日に親子で学ぶことができるような工夫を望む。(情報教育、プログラミング教育、性教育等)
- ・休み時間に元気よく外遊びをする児童の姿が多く見受けられ安心している。
- ・コロナ禍やオンラインゲームの影響もあり、下校後の児童の外出が減っている。体力の低下や心の落ち込みが心配される。現状を把握し、引き続き的確な対応を期待する。
- ・食育を教育活動に取り入れる必要がある。実践をお願いしたい。

(業務改善)

- ・教職員間の共通理解が図られていたことは評価できる。
- ・教職員の連携と協働が組織の活性化につながり、地域や保護者とのつながりを深めることがさらなる教育力の向上につながる。しっかり取り組まれているものと評価する。
- ・教職員が働きやすい職場づくり・同僚性を大切にした組織づくりを継続してほしい。

(地域連携)

- ・コロナ禍において、地域連携の面でメリットを見出すことも必要である。視点を変えた教育活動を模索してほしい。(今だからできること、すべきこと)
- ・地域としても子どもたちのために「あいさつ運動」は継続していきたい。
- ・厚狭地域には、協力的な方が多くおられる。登下校の見守りや挨拶運動など充実している。